



桐川 修

奈良工業高等専門学校 教務主事

英語学習表彰制度

今年度から教務主事を務めています桐川です。教務主事というのは奈良高専における学習や勉強に関係するすべてのことを担当する部署ですので、皆さんとは非常に関係の深いところですよ。従来より教務が扱う仕事で最も重要なもののひとつに『英語教育の充実』ということがあります。皆さんにどうすれば英語の勉強に興味を持ってもらえるのか、これまでいろいろ対策が講じられてきました。そのひとつに『TOEIC スコア表彰制度』というものがあります。本校では3年生以上の学生は全員 TOEIC-IP 試験を受験し、その成績の優秀な人たちを学校から表彰する、というものです。これまでに多くの学生がこの制度で表彰を受け、実際のところも学校全体の TOEIC スコアも徐々にですが上がってきているようです。今回この制度を若干手直しし、TOEIC だけではなく実用英語技能検定（いわゆる英検）の成績も含めた形で表彰できるよう検討しています。とくに低学年の人は TOEIC より英検のほうに馴染んでいると考えるからです。英語学習のひとつのきっかけとしてもらえれば、と思います。正式に決まりましたら連絡いたしますのでがんばって学習を続けてほしいと思います。

英語とドイツ語の成り立ち

さて、私自身のことをすこし紹介しておきましょう。一般教科所属で『ドイツ語』を担当しています。4年生以上の人はすでにご存じと思いますが、3年生以下の人は教室で顔を会わせるのは来年度以降ということになりますね。研究分野はドイツ語学、早い話がドイツ語の文法を中心とした研究です。とりわけ古い時代（800～900年くらい前のドイツ語です。当時ヨーロッパは騎士の時代でした。）のドイツ語に興味を持っています。

さて、今日は皆さんが中学校以来勉強している英語と、私が専門に勉強しているドイツ語との違いについて、その成り立ちに焦点をあててお話してみたいと思います。

英語というくらいですから英語は英国すなわちイギリスで

用いられている言葉ですね。現在では本家のイギリスだけでなく、アメリカやオセアニアそしてアジア、アフリカにいたるまで、世界中で使用され世界標準語ともなっていますね。

ではそのイギリス（ブリテン島）でいつ頃から使われているのかと言いますと、今からおおよそ 1500～1600 年前の西暦 5 世紀ごろに、ヨーロッパ大陸から侵入してきたゲルマン部族（具体的にはアングル族とサクソン族など）の言葉に遡るとされています。（England は「アングル族の土地」という意味です。また現在でもイギリス系の人たちのことを『アングロサクソン』と呼ぶことがありますね。）したがって彼らの言葉は基本的にはゲルマン系の言葉でした。一方、ゲルマンの部族の中にはブリテン島に移らずに、ヨーロッパ大陸にそのまま定住した部族もありました。（じつはこちらの方が圧倒的に多くて、たとえばフランク族、ゴート族、ブルグント族などがあげられます。）

さて、5 世紀にブリテン島に侵入したゲルマン人たちは自分たちの部族国家を築き、その後比較的安定した国家運営をおこなっていました。しかし 11 世紀になって、フランス北部のノルマン人たちの侵攻を受けます。ノルマン人たちはアングロサクソンの国家を侵略し、自分たちの国家（＝ノルマン朝）をうちたてます。ノルマン人たちはフランス語（の前身）を用いていたので、この当時ブリテン島の人たちが用いていた言葉（アングロサクソン語あるいは古英語）の中に支配者の言葉であるフランス語の影響が大幅に入りこむこととなりました。（フランス語の系統はゲルマン語ではなく、別系統のラテン語です。）つまりもともとゲルマン系の言葉だった英語が大きな変身を遂げました。この事件は英語の歴史にとって極めて大きなもので、現在の英語の姿を決定づけるものとなりました。

一方、そのままヨーロッパに定住したゲルマン人たちの言葉は多少の変化は被ったものの、ブリテン島のアングロサクソン語が遂げた大変身とは比べようもないほど小さいものでした。したがって千数百年前のゲルマン語の特徴がそのまま残って現在に至っているといってもいいでしょう。その代表格が『ドイツ語』なのです。

英語とドイツ語を比べると

皆さんは英語で形容詞の比較級の作り方に 2 種類あることは知っていますね。たとえば high - higher - highest と beautiful - more beautiful - most beautiful、つまり原級に -er, -est を付ける場合と、原級の前に more, most を付ける場合がありますね。じつは前者の方法がゲルマン系、後者の方法がフランス系の作り方で、英語は両方の作り方が混じり合っているわけです。ドイツ語は常に -er, -(e)st 一本槍です。また、同じ「牛」や「豚」をあらわす単語でも、英語では生き物をさす場合は cow, pig なのに対し、その肉が食べ物となった場合はそれぞれ beef, pork と使い分けが必要です。先ほどと同様に前者はゲルマン系、後者がフランス系の語です。ドイツ語は生き物、食べ物の区別なく Rind, Schwein です。このように同じゲルマン系の言葉であった英語とドイツ語ですが、今から千年近く前に起こった事件を契機として、両者の間に大きな違いが生じ現在に至っています。

いかがでしたでしょうか。少しは英語そしてドイツ語に興味を持っていただけたでしょうか。今後の学習の参考にいただければと思います。

